

2022年3月12日  
栃木県青年国際交流機構

## 「とちぎから世界へ！オンラインでつながる国際交流」事業報告書

このたび、表記の事業を実施いたしましたので下記の通りご報告いたします。

### 記

#### 1. 目的

国際交流の機会が少ない高校生を中心とした栃木県民に対し、国際交流の場を提供し、海外の文化を身近に感じてもらう。国際交流を身近に感じてもらう世界へ一歩踏み出す後押しをする。

#### 2. 日程・場所

##### 1) とちぎグローバルセミナー（対面式開催）

日程：2021年7月31日（土）

会場：栃木県国際交流協会

##### 2) 「とちぎから世界へ！」オンラインでつながる国際交流（オンライン開催）

第1回（ミャンマー）：2021年8月28日（土）10:00-12:00

第2回（マレーシア）：2021年10月16日（土）16:00-18:00

第3回（ラオス）：2022年3月12日（土）10:00-12:00

#### 3. 実施方法および内容

##### 1) とちぎグローバルセミナー（対面式開催）

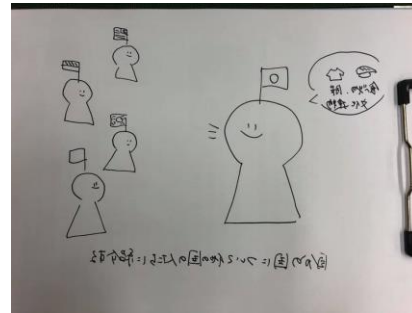
＜実施方法＞

栃木県国際交流協会が提供するとちぎグローバルセミナーの1コマにて、高校生向けの国際交流事業を実施しているNPO法人 See You Soon と協働し、高校生向けに国際交流事業を身近に感じられるワークショップを提供した。

参加者：14名

＜内容＞

NPO法人 See You Soon メンバから自身の国際交流経験を共有し、参加者同士で国際交流に対するイメージを白紙に書き出し共有した。



## 2) 「とちぎから世界へ!」 オンラインでつながる国際交流 (オンライン開催)

高校生向けの国際交流事業を実施している NPO 法人 See You Soon と協働し、同団体のネットワークを活かして、東南アジア青年の船事業既参加青年による東南アジア 3 か国の青年によるオンラインでの文化紹介を実施した。

### ① 第 1 回：ミャンマーの文化に触れよう

前半は、日本人青年によるミャンマーの紹介・ミャンマー語のレクチャーを実施した。また、後半はミャンマーの青年による自己紹介、日本での思い出の共有、ミャンマーの文化紹介を行った。現地オンラインツアーと寄付文化の紹介を行った。

参加者：13 名

### ② 第 2 回：マレーシアの文化に触れよう

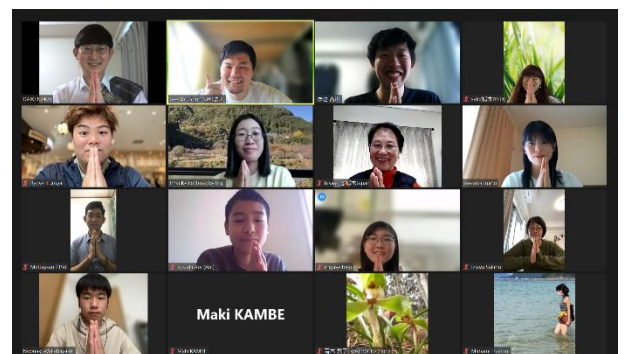
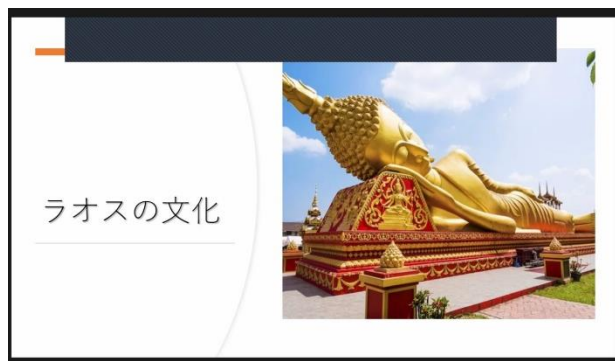
前半は、マレーシアの紹介とミニクイズを通してミャンマーへの理解を深めた。後半は、マレーシア人青年による、多文化共生事例の紹介を行った。

参加者：13 名

### ③ 第 3 回：ラオスの文化に触れよう

前半は、ラオスの紹介とミニクイズを通してラオスの理解を深めた。後半は、日本在住のラオス人青年によるラオスの文化紹介を行った。

参加者：16 名

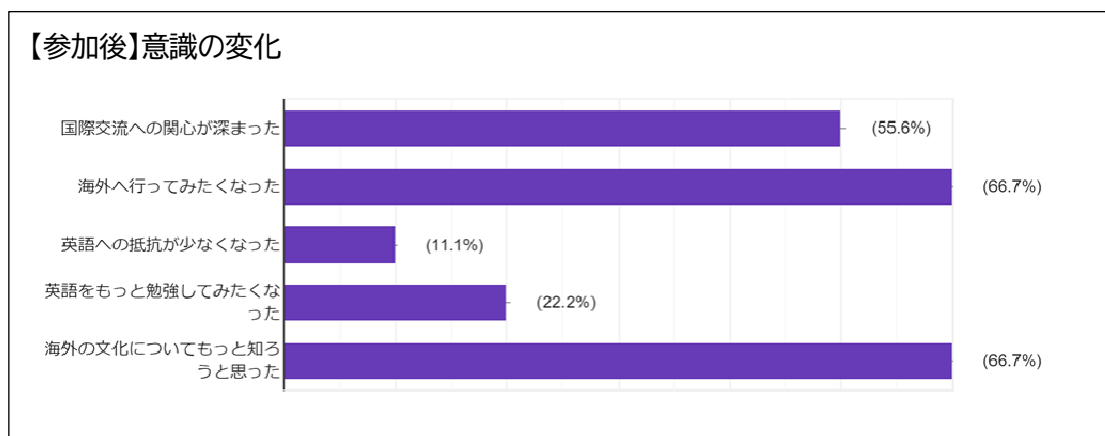
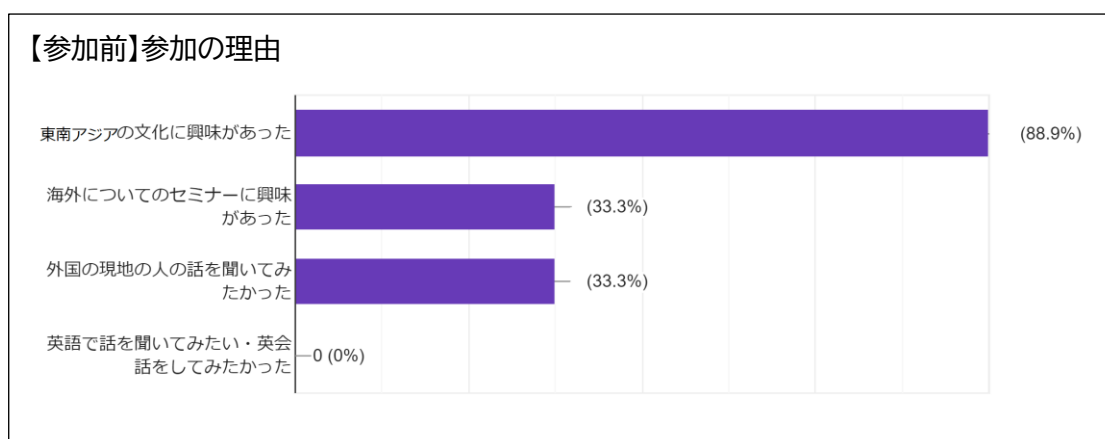


#### 4. 成果

高校生を始めとした、栃木県民に対して国際交流の場を提供することができたと評価する。参加者は延べ56名にのぼり、全4回を通して小学生から高齢者まで幅広い年齢層の方に参加いただくことができた。参加者のうち、約70%が「次回も参加したい」と回答しており、楽しんでもらえたと考えられる。

また、栃木県民をターゲットとした企画であったが、実際は近隣の千葉県・茨城県・群馬県・神奈川県・東京都、さらには大阪府、岡山県、福岡県からの参加者もありオンライン開催の有用性を感じた。

栃木県 IYEO として、他団体とのコラボレーションすることで自分たちだけでは実施が難しい企画を実施することができた。



参加者アンケートによると、東南アジアの文化に興味があることが参加のきっかけであることが多かったが、参加を通じて、海外へ行くこと・文化について知ろうという意識の高まり、また、少なからず英語の勉強をしてみたいという意識の変化などが見られた。

## 5. 今後の展望

幅広い年齢層、地域の方に参加いただくことができたが、当初のターゲットである高校生の参加者数が思うように伸びなかった。広報のやり方について今後は SNS を積極的に活用していきたい。また、セミナー実施時に参加者からの発言が少ない場面もあったため、より気軽に積極的に参加してもらえるような工夫をしていきたい。

NPO 法人 See You Soon メンバーには多大なご支援をいただき、全 4 回を通してイベントをやり遂げることができた。イベント企画や、参加者収集のためのアプローチ、ワークショップ運営など勉強になることが多くあり大変勉強になった。

今後も栃木県 IYEO は継続して、栃木県を始めとする多くの人に国際交流を身近に感じてもらい世界へ一歩踏み出す後押しをしていきたい。

以上